

## 2015 年度研究助成 研究成果報告書（HP掲載用）

研究課題名：家庭における子どもの存在が成人女性の食生活に与える影響

お茶の水女子大学	齋藤	あき
聖徳大学	松本	麻衣
城西大学	齋藤	雅文
神戸学院大学	百武	愛子
甲子園大学	岡本	尚子

### 【研究要旨】（研究要旨を 200～300 文字程度でご記入ください。）

「親の生活習慣や親の食習慣が子どもの食習慣にどのように影響しているか」については、欧米諸国で多数研究がなされているものの、その逆（子どもの存在が親の食習慣にどのように影響しているのか）を調べた研究は少ない。そこで本研究では、23～44 歳の日本人既婚女性にとって 5 歳以下の子どもの存在が、食物選択にどのように関連しているのかを横断的に探索した。その結果、「子どもあり群」と「子どもなし群」の間では、たんぱく質、炭水化物、銅、ナトリウムの摂取量に有意差が見られた。食品群で見ると、魚の干物・塩漬け類、豆腐、にんじん・かぼちゃ類、フルーツジュース・野菜ジュース類、紅茶・ウーロン茶類の摂取量に有意差が見られた。差が見られた栄養素及び食品群は、諸外国の先行研究の結果と異なっており、今後この結果の背景を検討する必要があるものの、子どもの有無は栄養素及び食品群摂取量に関連していることが示唆された。

### 【研究目的】

米国や中国において、子どもとその保護者の栄養素摂取量に関連することが報告されており、保護者と子どもの食習慣は密接に関連していると考えられる。米国において、家庭に子どもが存在することで、親の脂質摂取量が多いことが報告されているが、日本において、家庭での子どもの存在が、成人の食品選択に及ぼす影響を評価した研究はない。そこで、23～44 歳の日本人既婚女性を対象として、5 歳以下の子どもの存在が既婚女性の栄養素および食品群摂取量にどのように関連しているのかを横断的に明らかにすることを目的とする。

### 【研究方法】

対象者は、5 歳以下の子どもを持つ日本人既婚女性（子どもあり群）72 名（平均年齢 + 標準偏差：33.9 + 4.2 歳）および 5 歳以下の子どもを持たない日本人既婚女性（子どもなし群）85 名（平均年齢：31.3 + 4.3 歳）である。平成 25 年 12 月より平成 27 年 8 月ま

でに協力の得られた対象者に、食品および栄養素摂取を把握するために妥当性が評価されている簡易型自記式食事歴法質問票（BDHQ）および生活状況に関する質問票を配布し、回答をお願いした。回答漏れがある場合は、1回に限り再調査を実施した。

BDHQを用いて算出された栄養素及び食品群摂取量は密度法により調整し、「子どもあり」および「子どもなし」の2群間で、栄養素及び食品群摂取量に違いがあるか、共分散分析を用いて評価した。

### 【研究結果】

対象者の年齢および収入に、2群間で有意な差があった（ $p < 0.05$ ）。栄養素摂取量（それぞれ平均値±標準誤差、「子どもあり」群、「子どもなし」群）のうち、たんぱく質（ $39.3 \pm 0.7$  (g/1,000kcal),  $37.1 \pm 0.7$  (g/1,000kcal),  $p=0.04$ ）、炭水化物（ $135 \pm 2$  (g/1000cal),  $128 \pm 2$  (g/1000kcal),  $p=0.011$ ）、銅（ $0.65 \pm 0.1$  (mg/1000kcal),  $0.60 \pm 0.1$  (mg/1000kcal),  $p=0.007$ ）、食塩相当量（ $5.8 \pm 0.1$  (g/1000kcal),  $5.3 \pm 0.1$  (g/1000kcal),  $p=0.003$ )は、「子どもあり」群のほうが「子どもなし」群より摂取量が多かった。

また、食品群摂取量（それぞれ平均値±標準誤差、「子どもあり」群、「子どもなし」群）においては、魚の干物・塩漬け類（ $9.5 \pm 0.9$  (g/1000kcal),  $6.4 \pm 0.9$  (g/1000kcal),  $p=0.02$ ）豆腐（ $33.8 \pm 2.1$  (g/1000kcal),  $24.7 \pm 2.0$  (g/1000kcal),  $p=0.02$ ）、にんじん・かぼちゃ類（ $17.6 \pm 12.5$  (g/1000kcal),  $13.4 \pm 10.4$  (g/1000kcal),  $p=0.003$ ）、フルーツジュース・野菜ジュース類（ $16.5 \pm 4.6$  (g/1000kcal),  $31.9 \pm 4.2$  (g/1000kcal),  $p=0.02$ ）、紅茶・ウーロン茶類（ $48.7 \pm 13.0$  (g/1000kcal),  $90.8 \pm 11.9$  (g/1000kcal),  $p=0.02$ ）の摂取量に2群間で差が見られた。

### 【考察】

本研究の結果から、5歳以下の子どもの存在は、子どもの母親の栄養素（たんぱく質、炭水化物、銅、ナトリウム）摂取量及び食品群（魚の干物・塩漬け類、豆腐、にんじん・かぼちゃ類、フルーツジュース・野菜ジュース類、紅茶・ウーロン茶類）に関連する可能性が示唆された。本研究で違いが見られた栄養素摂取量は、同様の関連を調査した米国の先行研究で見られた栄養素摂取量の違いとは異なるものであった。

また、いくつかの食品群摂取量の違いが見られたが、今後、子どもの有無による摂取量の差が見られた食品群の特徴を検証する等、この結果が子どもの食習慣を反映するものであるのか、成人女性の食習慣の違いの影響であるのかを検討する必要があると考えられる。

### 【結論】

差が見られた栄養素及び食品群は、諸外国の先行研究の結果と異なっており、今後この結果の背景を検討する必要があるものの、子どもの有無は栄養素及び食品群摂取量に関連していることが示唆された。